



session 3

幕末明治戯作を読む





幕末明治の書店店頭



絵草紙屋

(長崎大学附属図書館幕末・明治期日本古写真メタデータ・データベース 目録番号2448)

本は平置きするもの
立てるようには出来ていない
洋装本に存する背題は存在しない



本の広告

江戸土産之内 絵ざうし屋



錦絵と絵本



三代歌川豊国 『今様見立士農工商』 安政4年（1857）
国立国会図書館 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1307620>

書物 = 商品
(商業出版) 袋入



地本／戯作

■地本■

文化的にも後進地域であった江戸での出版は、特に絵草子・草双紙といった種類のものが、ローカルな出版物であるという意味の「地本」という名称を以て行われ、それらは明暦・万治（1655－61）頃から次第に発展して、やがて享保を過ぎる頃、文運東漸の波に乗って急激に伸展し、「地本問屋」と称して、書物屋仲間とは別の、「地本問屋仲間」を結成し、おおいに発興した。この地本屋が出版したのが。いわゆる「地本」の類、即ち芝居関係の本や、「江戸戯作」とよばれるものの殆どを含む草子类である表紙の色や書型など、外型による名目が目立つ所が地本の特色でもあるので、研究には、特に外型の如何に対する配慮を重要とする。

■戯作とは■

文学史の上では滑稽本に包括される談義本、洒落本、黄表紙、咄本などの作品群であり、それに前期読本をも加える。すなわち老中松平定信の寛政改革によって、出版取締令の対象となるまで江戸で出版された文学作品を、総称して戯作というのが狭義の戯作であり、広義では狭義のものに加えて、寛政改革以後出版された滑稽本、人情本、合巻、後期読本をもふくめていう。要するに十八世紀中葉以後、江戸で出版された小説の総称とってよい。



本の大きさと「格」



吉原揚枝

全

小本

西行

中本

繪圖

新編
復讐
加茶子巻

一之巻

半紙本

- ※購入する本／貸本屋から借りる本
- ※紙の状態（上質の楮（こうぞ）紙／漉き返し紙〔再生紙〕）
- ※残存率（消費されたモノは残らない→→いまや貴重に）



改革とジャンルの変化 山東京伝『吉原楊枝』 (洒落本・小本)

冊々々々セツ清くせ奉^りぬま^りの書
すま^りく。惚^れなむ。一筆^書乃
かきひと^なま^りよ

京ば一清
おとんと一書



序二

吉原楊枝 山東京傳著
人々々々惚^れむつ^てい^はぬ。歌^の二ツありと
む玉極^{なり}つと。歩^とと^はぬ。歌^とぬま娘^よ
川竹とつぎと^をく^たま^よ吳^{なり}三^枝
簀^の投^長半^よ大^{あり}袖^{の名}有^り。む^い山^の
ま^いせ^いい^はお^うち^まん^ぢう^の役^をけ^い竹^か
花^楊梁^よ大^門と傾^城を^画く^うう^う。惚^れ真^ち
おと女^買と^いふ^一富^よ生^ぶる^のの^と知^れ



人相醉狂集

俗 百はら

あれは百はらとていふて男女
を少少のうらみのとてきやかと
あつて其相の可笑くふおを
あつて詞とていふてこれバ
ひやうひやうのわやぶあ
とていふてあつていふて

劇場客者評判記

草稿をよみ出せばなる彫刻
とていふて近自實出の

役者ひやうをいふてあつていふ
ぐやの方う見物の人、とて評
しる古今未だ乃人物評林
あつていふていふていふていふ
とていふていふていふていふ
のいふていふていふていふ
こんとん五だんあつていふ
ひやうひやうのいふていふ
それのいふていふていふ
とていふていふていふ

譚話浮世風呂二編卷之上

江戸戯作者 式亭三馬著

女中湯之巻



朝湯より昼前のありさ

物ゆひの 百はら 一切成就拔極巨穢毛滯無礼波穢者有羅之内外
乃玉垣清浄登申壽 一天四海皆啼妙法南無高祖
日蓮大菩薩南無妙法蓮華經 願く此切徳
とていふていふていふていふ
南無阿弥陀佛。浄土宗やら。法華中。八宗九宗



笠亭仙果『犬の艸紙』（読本抄録合巻・中本）





栗枝亭陶山（鬼卯）『新編陽炎之卷』（読本・半紙本）

新編陽炎之卷序

○小猿盜鏡為謀詔

孟子曰天子不仁不保四海諸侯不仁不保宗廟士人不仁不保其親

東都

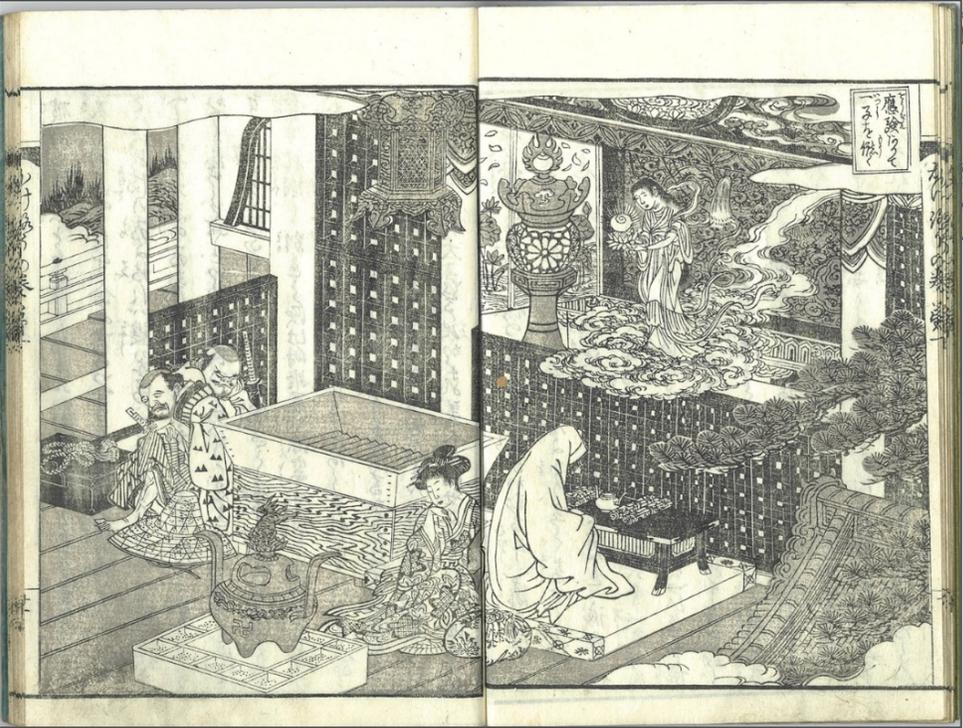


卷之五

第一回 本村太郎久於彦戸山討盜賊詔

第二回 於勢州桑名町家川原復讎詔

第三回 復讎言入、勢州詔



栗枝亭陶山著

文化 戊辰 新刻

復讎 新篇

情吟乃卷

全六冊

浪華 田中氏梓 書舗

序

鬼印子善官言。一日御墨之符常。戲記某復讎之事。批溪子施諸丹書。二美合為五卷。題曰陽炎卷。蓋倂紫姫源語。又取改平身文和歌所詠。有無彷彿之義。身亦烏有亡是之意也。余讀之。



草双紙合巻の史的変遷

揺籃期	文化元年1804～文化六年1809	短編読切
定着期	文化七年1810～文化十四年1817	短編読切
発展期	文政元年1818～文政六年1823	短編読切が中心
転換期	文政七年1824～天保十四年1843	短編長編の併存
沈滞期	弘化元年1844～明治九年1876	長編続物が中心
終息期	明治十年1877～明治二十年頃1887	新聞雑誌へ解消



中野三敏 『江戸の板本』 より

◇刊（板・版）

※厳密に言えば、板木が彫りあげられ、その板木によって刷りあげられた本が、最初に刊行された時点と言う。

※刊記を持たぬのが通例の草双紙などの場合、後期になると浮世絵と同じく行事の改め印や極め印を必要とし、その改めの年の干支を印文にしたものを巻頭に彫りつけてあるのが明証となる。そうした明証を求め得ぬ場合は、その本の刊行時に記されたと認定し得る序跋類に年記があれば、それを引用して「何年序刊」「何年跋刊」の如くにいう。

※和古書の場合、たとえ彫り代えて板を改めていても、奥付には原のままの年記を再度彫りつけていたりする場合が多く、改板の年次を知る術を持ち得ぬ場合が多いのも事実である。（あるいはカットしている場合も多い）

◇印（刷・摺）

※書誌学用語としての「印」はその本が実際に刷りあげられた時点をいう。

※古書の場合、当該本の印刷の時点はそれほど厳密にわからない場合が多いので、版面を見て殆ど摩滅欠損の無い正整なものの場合を「初印」（初刷り・初摺り）、逆に摩滅欠損が目立つものを「後印」（後刷り・後摺り）とするのが通例ではある。



合巻 揃いで残っているとは限らない

上下二冊のうち一方だけ存する
長編合巻の一部だけ存する等多し

改印



※表紙などが元のママとは限らない
(簡便な装幀→自由に直せる)



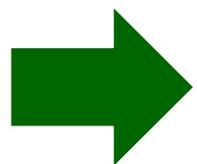
相対的な存在：所蔵者の改変を想定すべし

※少しでも原本に触れたことのある者ならば、一口に板と摺りに関する記述といっても、そう簡単に判断できるものでないことは誰でも知っている。本というものは、常に相対的な存在であるという認識に基づく必要があるから、この本こそ初板初摺だと断言するのはなかなか難しい。

つまり、何処かから、もっとよい本が出てくるかも知れないという認識なしに本と向き合うことはできないのである。まして、出板当初の姿をそのまま残している本が甚だ少ない中であって、後摺時の板元や、貸本屋、所蔵者などが後から加えた改変を見分けるのは大変である。

※近世期に出された板本は明治に入ってからも多く摺られており、それら後摺本に関する所在情報や書誌情報も研究には不可欠であるにも関わらず、検索する手段が狭められている。
海外でよくみられる「芸艸堂（うんそうどう）」版＝明治以降の摺

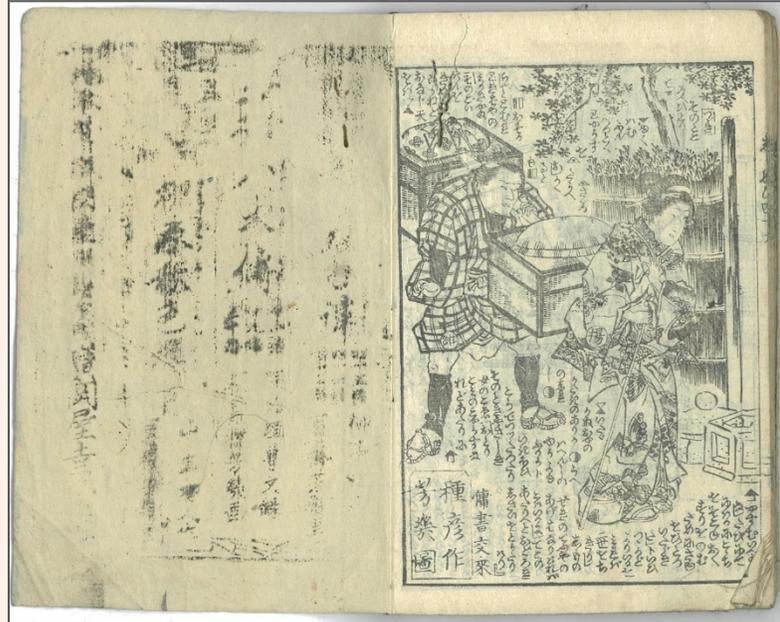
高木元「読本の書誌をめぐって」より抜粋



少しでも正確な情報記載が研究を推進（刊記等）



同じですか？



早稲田大学本：へ13_01178_0097



後から加えた改変を見分ける

①

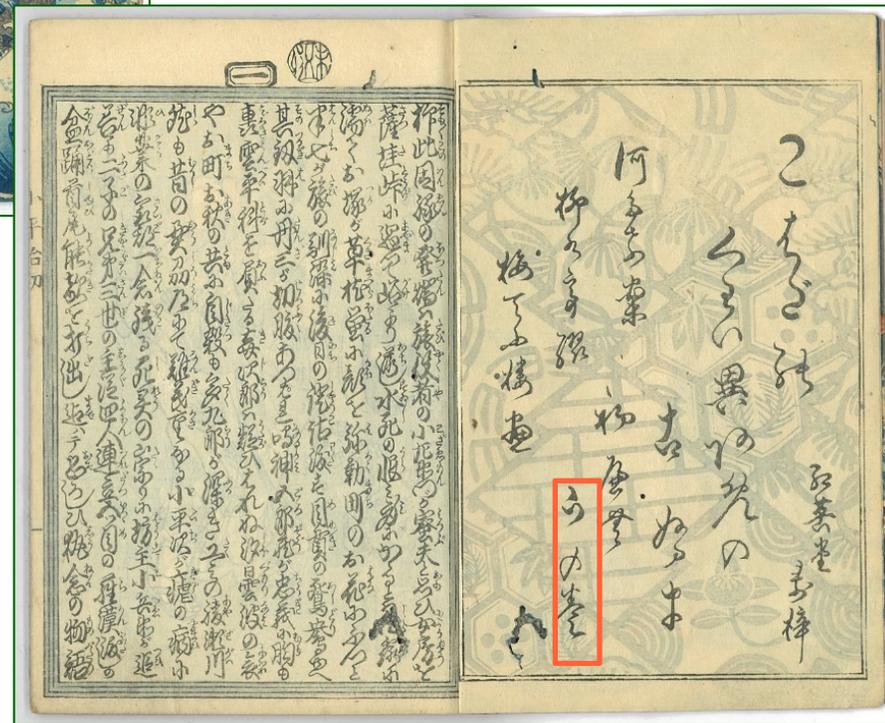
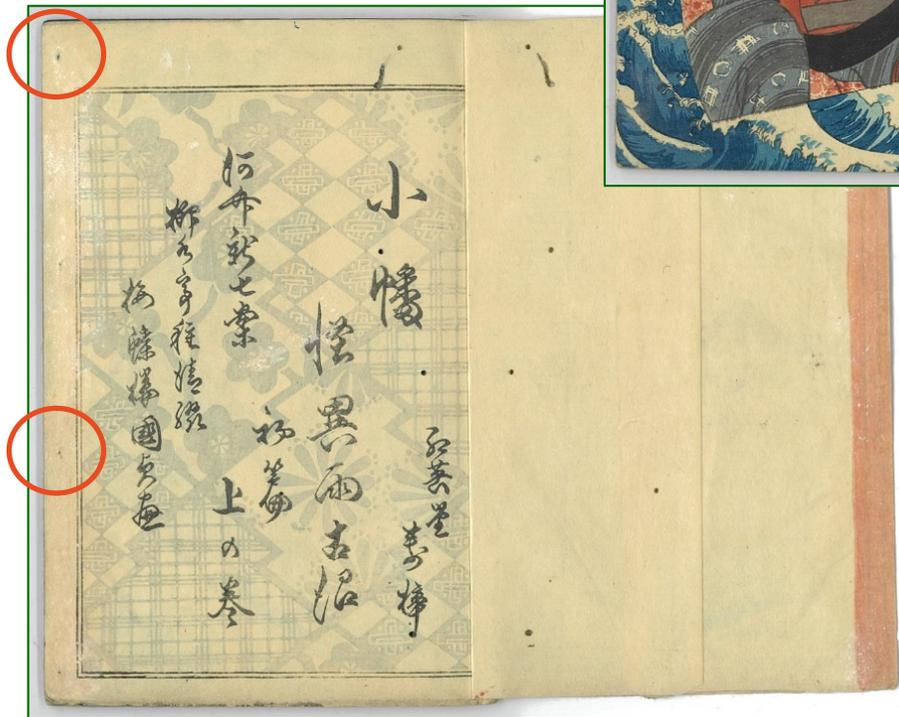


③



④

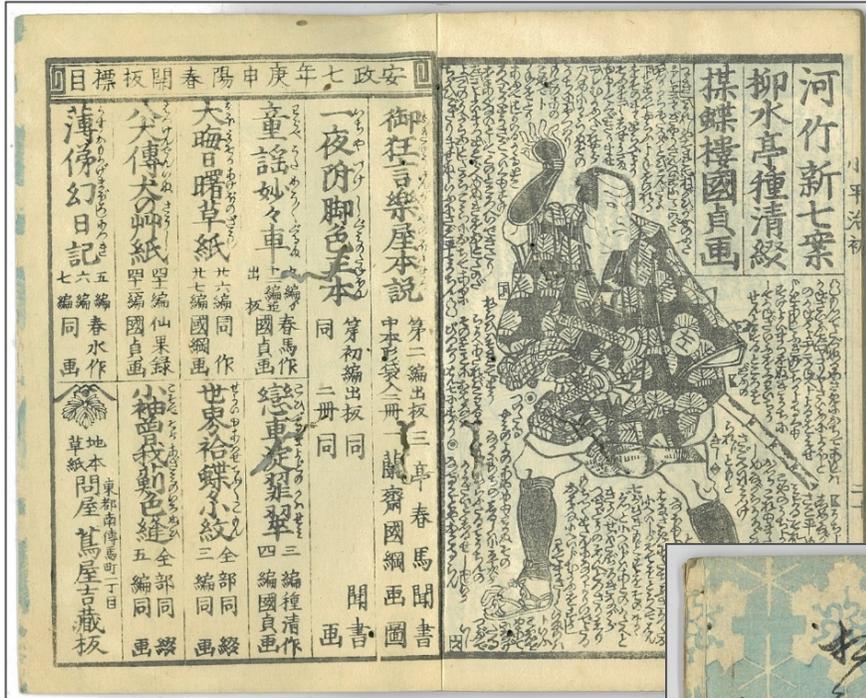
②





後から加えた改変を見分ける

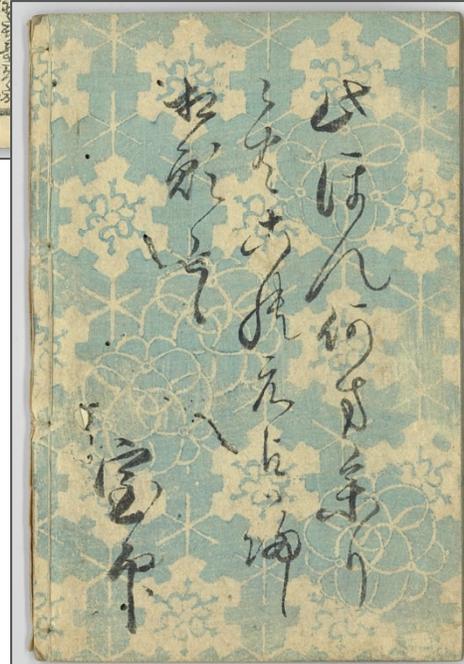
⑤



所蔵者による改変を経た残存
(上下・上中下など、散逸を防ぐ)

※袋を表紙に
(絵の摩耗を防ぐ…貸本屋など)

⑥



※錦絵表紙を鑑賞しやすく

※結果として一枚後ろ表紙が必要なくなる？

そもそも後ろ表紙の欠落本が多い

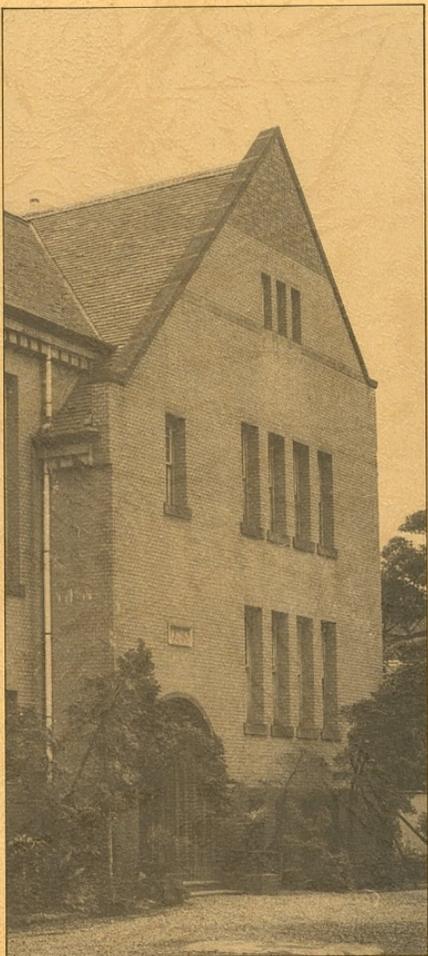


本は補修されるもの

わたくしがたった一つだけだが寄贈した
ものがあるなどというところ、誰しも驚くに
違いない。同館編『西鶴』を見ているう
ちに、ふと『西鶴諸国はなし 一』の表
紙の図版が、右肩に見える木下氏の書入
れの文字もそのまま、わたくしの手もと
にある同書の本文のすべてを欠落した表
紙裏表紙だけのものと、そっくり同じで
あることを発見した。しかもあいにく、
題簽はあるが巻数を示す文字の部分だけ
破れている。わたくしは同館に赴いた昭
和四十七年夏、お世話になったお礼です
と言って、木村氏にその世間では**反古同**
然の表裏表紙二枚を手渡した。よけいな
押しつけだったかもしれないが、多分今
ごろは、的確な処理で同館蔵のこの書の
二巻以後のどれかの表紙を補っているだ
ろうと思う。これは、近世文学に志しな
がら早く没した家兄が、大正年間に京都
で入手したものであった。

(水野稔先生の文章)

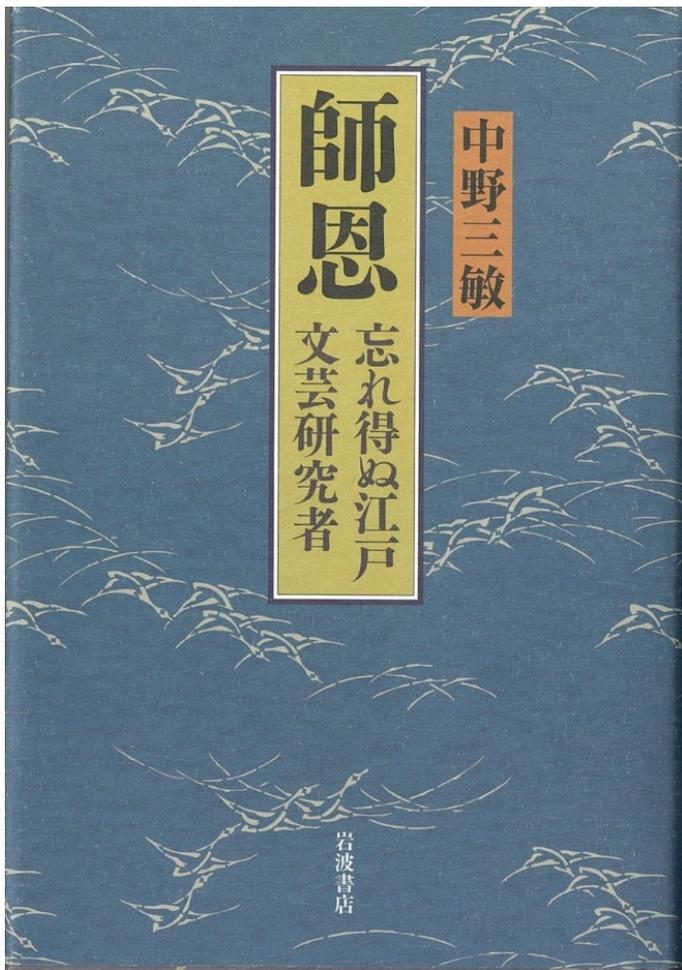
訪書の旅 集書の旅



財団法人日本古典文学会編
昭和六十三年四月刊



本は補修されるもの



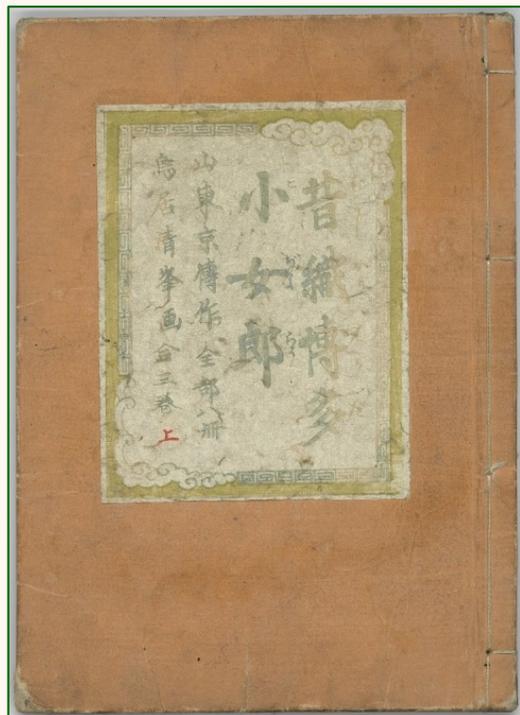
岩波書店 2016年1月刊

本は直すもの／直されるもの

例の二階から一冊というんで、常矩（つねのり）の『蛇之助五百韻』の痛み本をわけて貰ったことがある。この時も真つすぐ藤園堂へ持参したら、あすこは我々には見せてくれんで、と聊か口惜しそうな口ぶりだったが、すぐに、これ直りますよ、一寸預かりましようという事になり、一週間ほどもしたら、実に見事に本が生き返ったのには一驚した。見かけはそれほど器用には見えないのに、その後折々見世先に張り板を持ち出して、唇をなめなめ、虫直しや裏打ちに御出精の現場に出くわした。簡単な補修や糸の綴じ直しもそれからおいおい教わったものだった。遊女評判記の稀本『桃源集』の丹表紙が半分ちぎれていたので、別の丹表紙をはぎ合わせて、どうです、つぎ目がわかりますか、と御自慢だった様子が、今も目の前にアリアリと想い浮ぶ。



先入観をもたない（同じ本）



上製本（貸本屋など）
半紙本型



山東京伝全集より



早稲田大本：～13_01794



規制と書物

◇天保十三年（1842）六月四日「町触」抜粋現代語訳

（『江戸町触集成』13643）

〔錦絵と合巻を統制する町触〕

近来、合巻と称する絵草紙の類は、絵柄などが格別に入り組み、主に歌舞伎役者の似顔や芝居の趣向などを書き綴り、表紙や袋などに彩色を用い、無益なことに手数をかけ高い値段で売り出していることが問題であるので、これまでの仕入れ分は決して売買してはならない。今後は、**似顔や芝居の趣向などは止め、忠孝貞節などをもとにし、**子供や女性に善を勧めるうえで役立つよう書き綴り、絵柄も省略し、無用の手数をかけないように改め、**表紙・袋などに彩色を用いることはかたく無用にせよ。**新版が出来する時は町年寄の館市右衛門方へ差し出し、検閲を受けること。

【佐藤至子著書参照】



天保改革時の書物



孝信開運日記

(こうしんかいうんにっき)

巻冊：三巻（架蔵本は下巻1冊のみ）

著者：狂訓亭（為永）春水 画工：浮世庵国直（歌川国直）

成立年：天保十四（1843）年

分類：合巻 書肆：森屋治兵衛



天保改革時の書物



朧月猫草紙初編 初印本 (天保13年)



朧月猫草紙後印本

女芸者が普通の女性へ改刻

佐藤悟「挿絵から見た近世小説史」
(岩波講座日本文学史) より





中野三敏『江戸の板本』より 覆せ彫りと板元

◇印（刷・摺）

いわゆるベスト・セラーズとも言うべき本には、改板本や後印本が数多く存在することになるが、その場合、

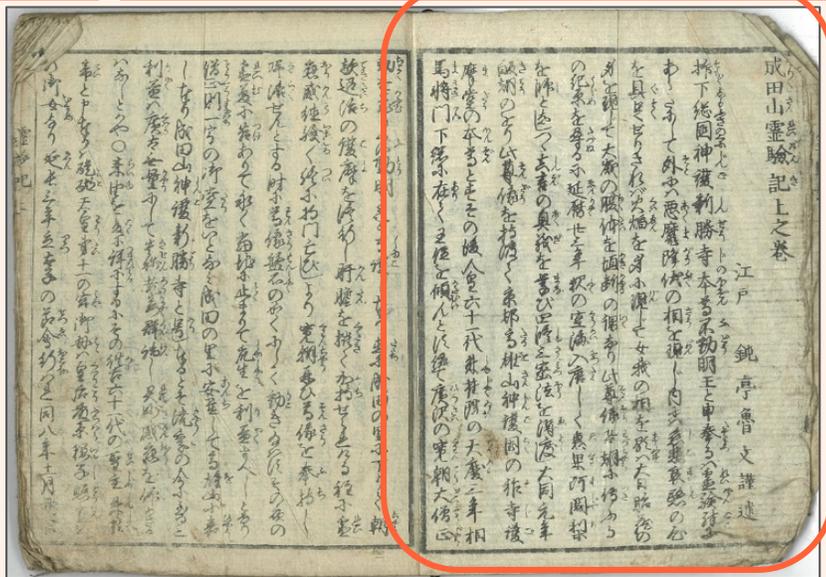
○刷り出した書肆が、初版の板元と同じ場合には覆刻（改板）本の存在の比率が高く、

○書肆が変っている場合は、初板と同板の後印本や補修本である率が高い。

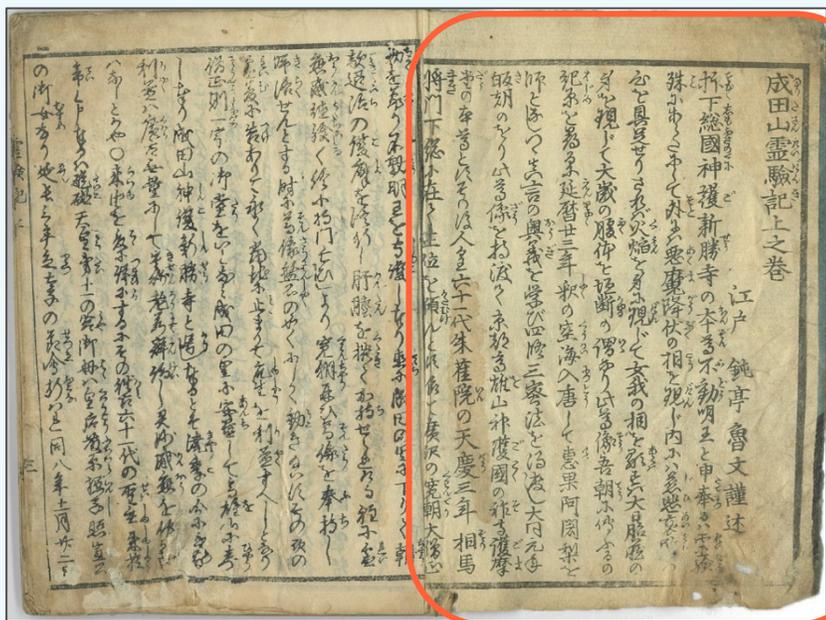
これは、書肆が変わるという事は、即ち変わった方の書肆が、その板を前の書肆から買い求めたことになる（これを「求板」と言う）ので、買い求めた側は当然そのために投下した資本を、その本を刷り出して販売することによって取り戻さねばならないので、買い求めた板木をそのまま利用するか、若干の補修を施した形で刷り出すことになる。即ち後印本や改題本などの補修本を作るわけである。ところが初板の書肆そのまま続けて板元として刷り出す場合は、後印本を刷り出してゆく内に板の痛みが進行するので、覆せ彫りを行って改板する場合が多くなるのである。



商品として（後摺の工夫：板木の数を減らす）



表紙 直政画



ナシ ナシ



表紙 芳春画



覆せ彫り





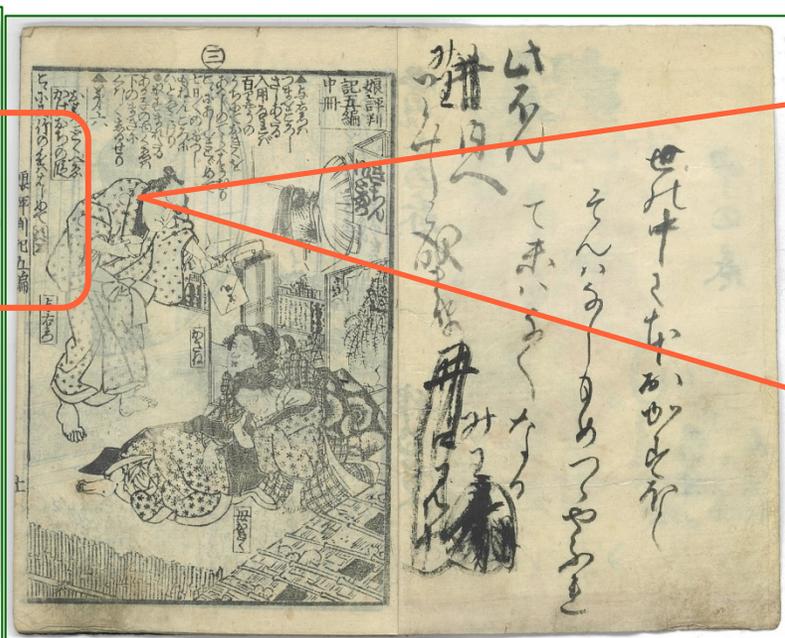
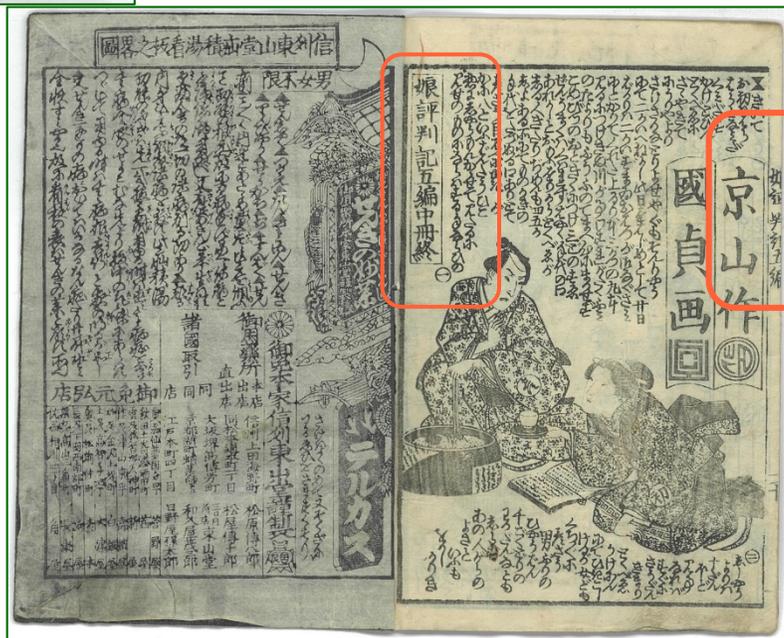
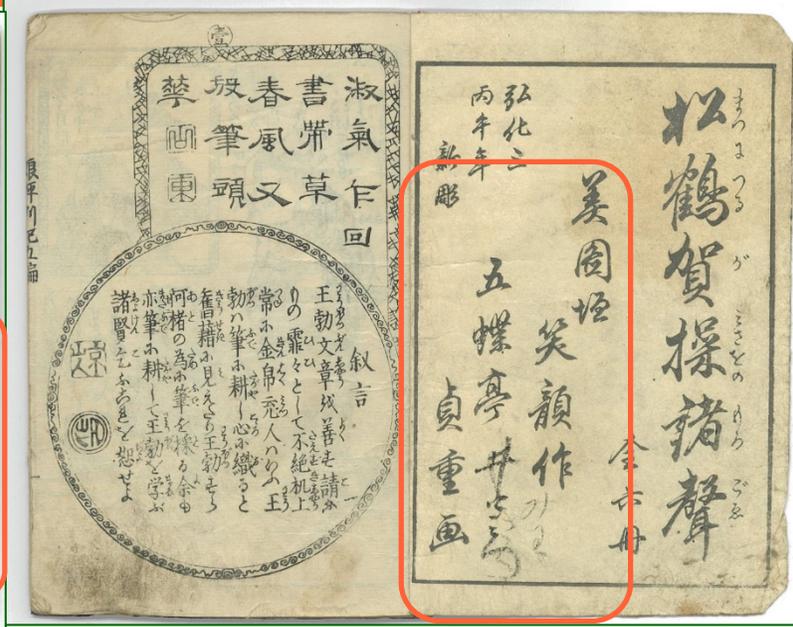
書誌のとりづらい本？



『松鶴賀操諸声（まつにつるがみさをのもろごえ）』上中下の三冊（≡錦絵三枚続）



『松鶴賀操諸声（まつにつるがみさをのもろごえ）』？



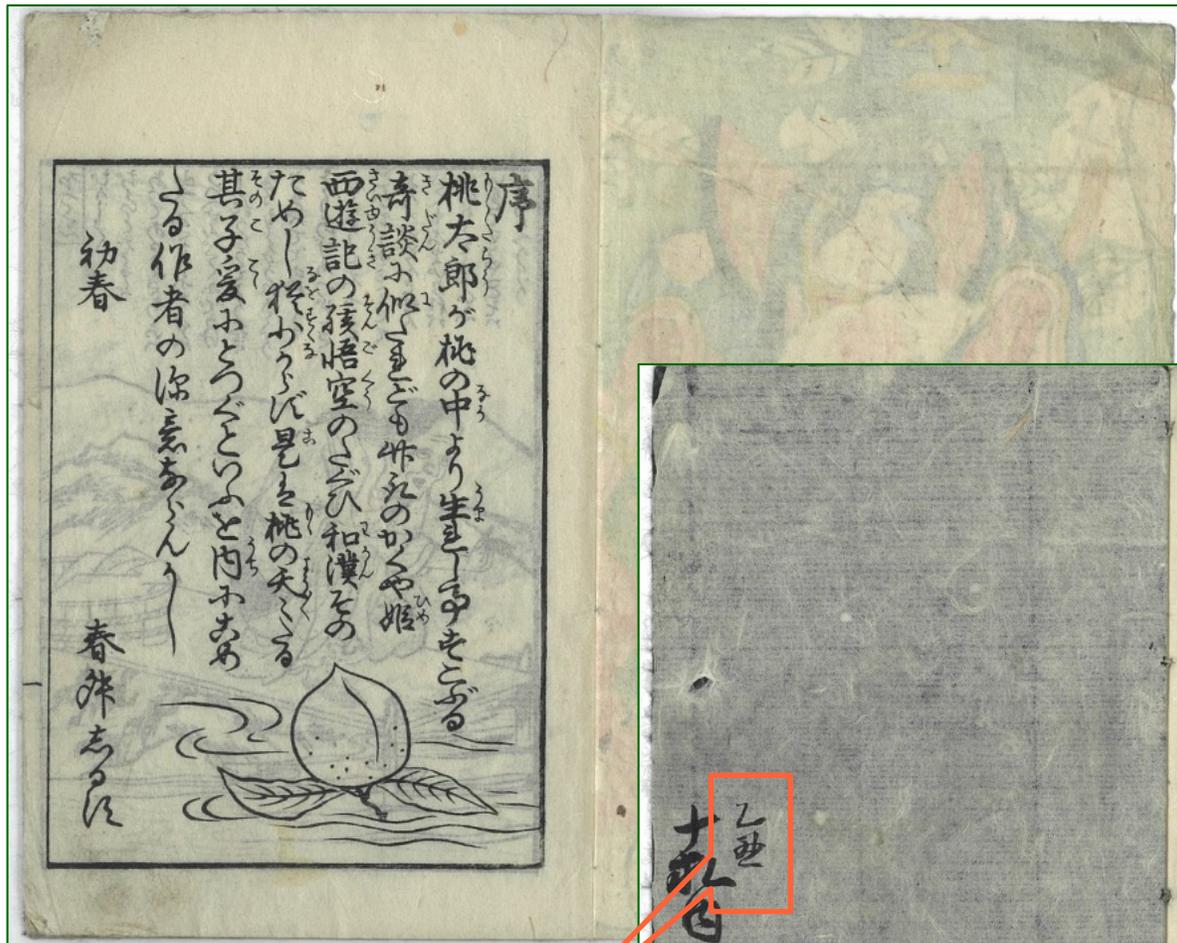
なぜそんなことが
起こるのか

本文も確認すべき。とくに柱題などの確認は重要

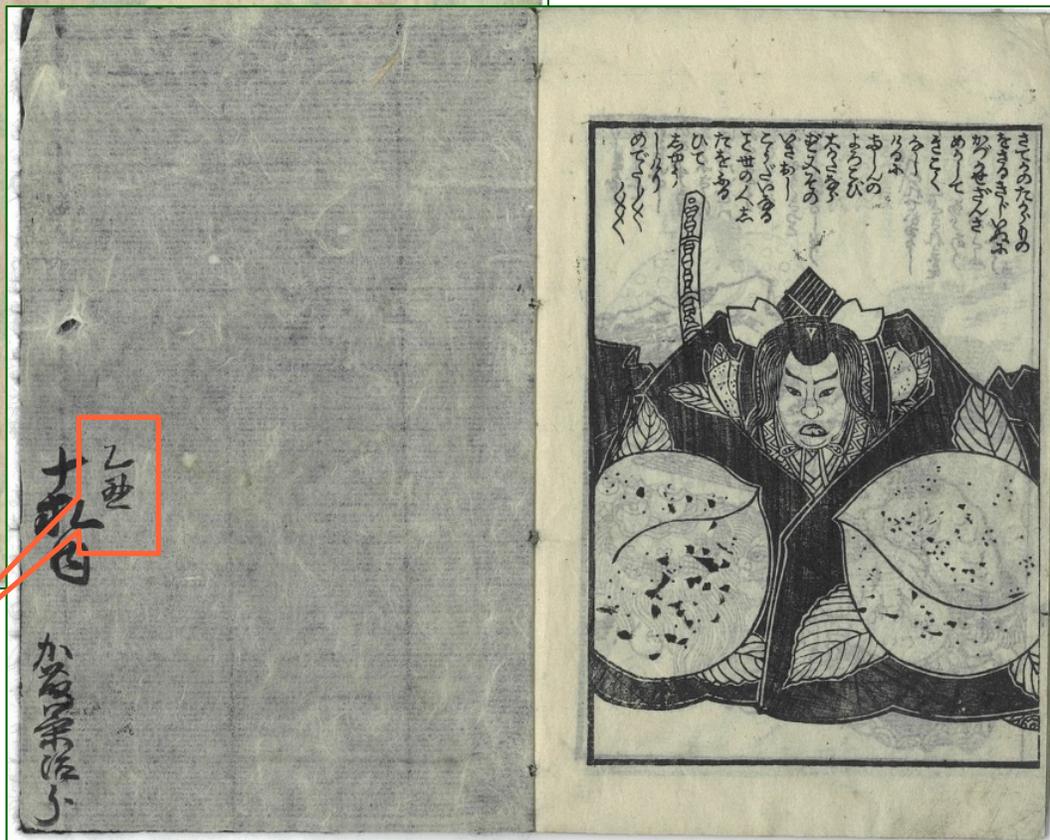


嘉永四（1851）年株仲間再興後と目される書物

嘉永四（1851）年
株仲間再興後と
目される書物



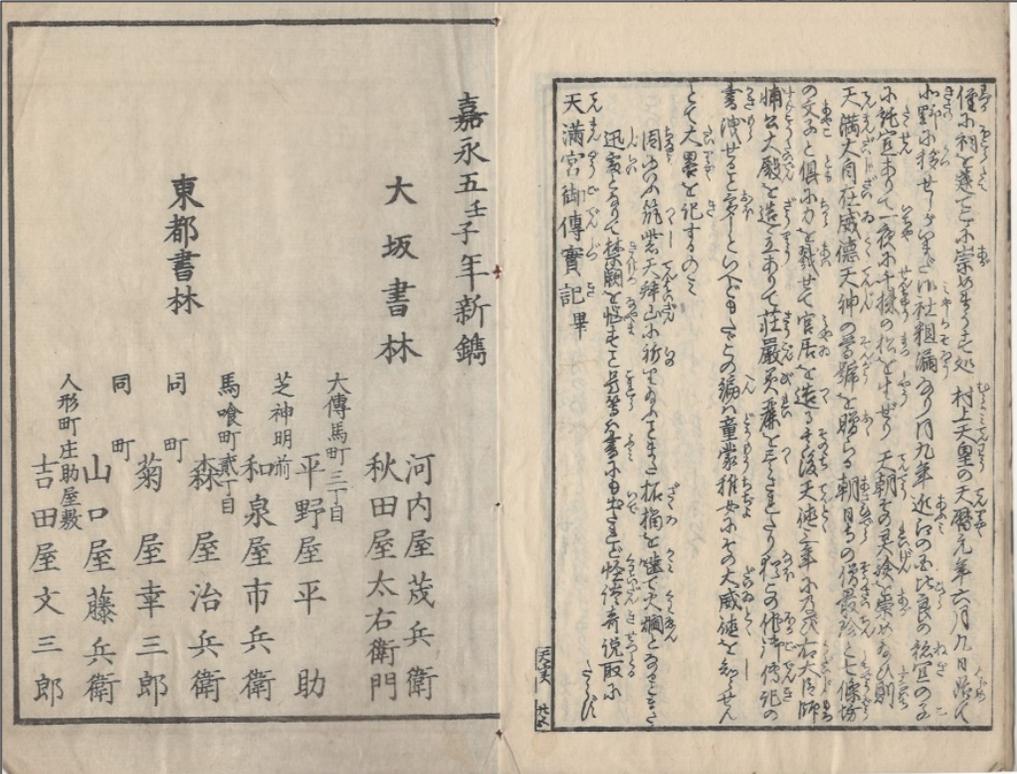
慶応元年
(1865)





株仲間再興後と目される書物

小口を残して三方を裁つという
簡易製本 = 【切附本】
但し半紙本の大きさ





明治八年九月三日「出版条例」抜粋（一部表記改変）

第一条 図書ヲ著作シ又ハ外国ノ図書ヲ翻訳シテ出版セントスル者ハ、出版ノ前ニ内務省へ届ケ出ベシ。（略）

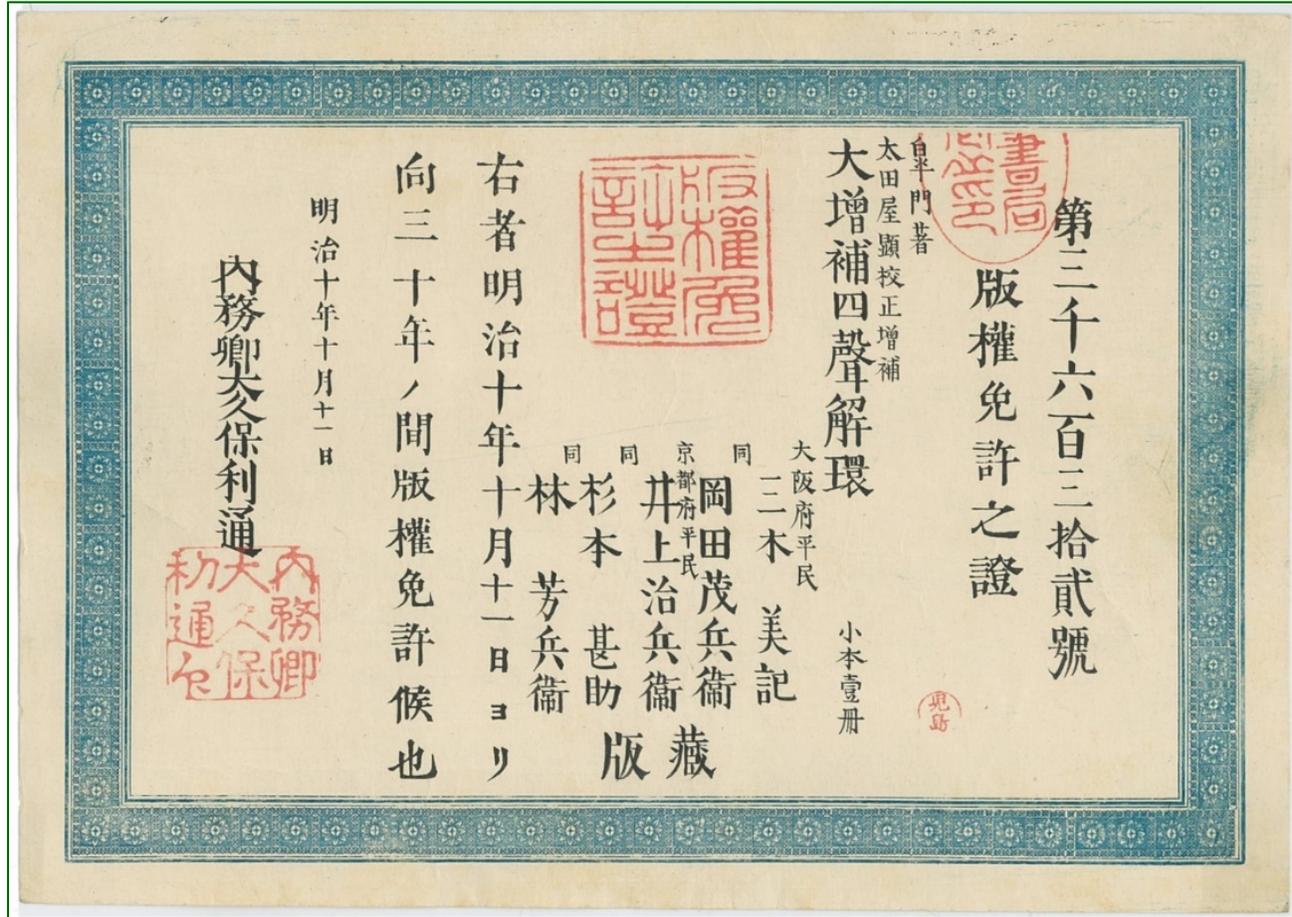
第二条 図書ヲ著作シ又ハ外国ノ図書ヲ翻訳シテ出版スルトキハ三十年間専売ノ権ヲ与フベシ。此ノ専売ノ権ヲ「板権」ト云フ。但シ板権ハ、願フト願ハザルトハ本人ノ随意トス。故ニ板権ヲ願フ者ハ願書ヲ差出シ、免許ヲ請フベシ。其願ハザル者ハ、各人一般ニ出版スルヲ許ス。

第二十条 図書刻成ノ上ハ製本三部ヲ内務省へ納ムベシ。其板権ヲ得ル者ハ、外ニ免許料トシテ製本六部ノ定価ヲ納ムベシ。納本セズ及免許料ヲ出サブル者ハ発売ヲ許サズ。但シ出版ノ上、每部定価ノ印ヲ押スベシ。

第二十一条 出版ノ図書ニハ著訳者ノ住所氏名ヲ記ス。著訳者ノ主名ヲ知ルベカラザル者ハ其由ヲ記スベシ。而シテ何年月日出板或ハ何年月日板権免許上記シ、板主ノ住所氏名ヲ記スベシ。氏名ヲ記セズシテ別号ヲ記スルコトヲ得ズ。

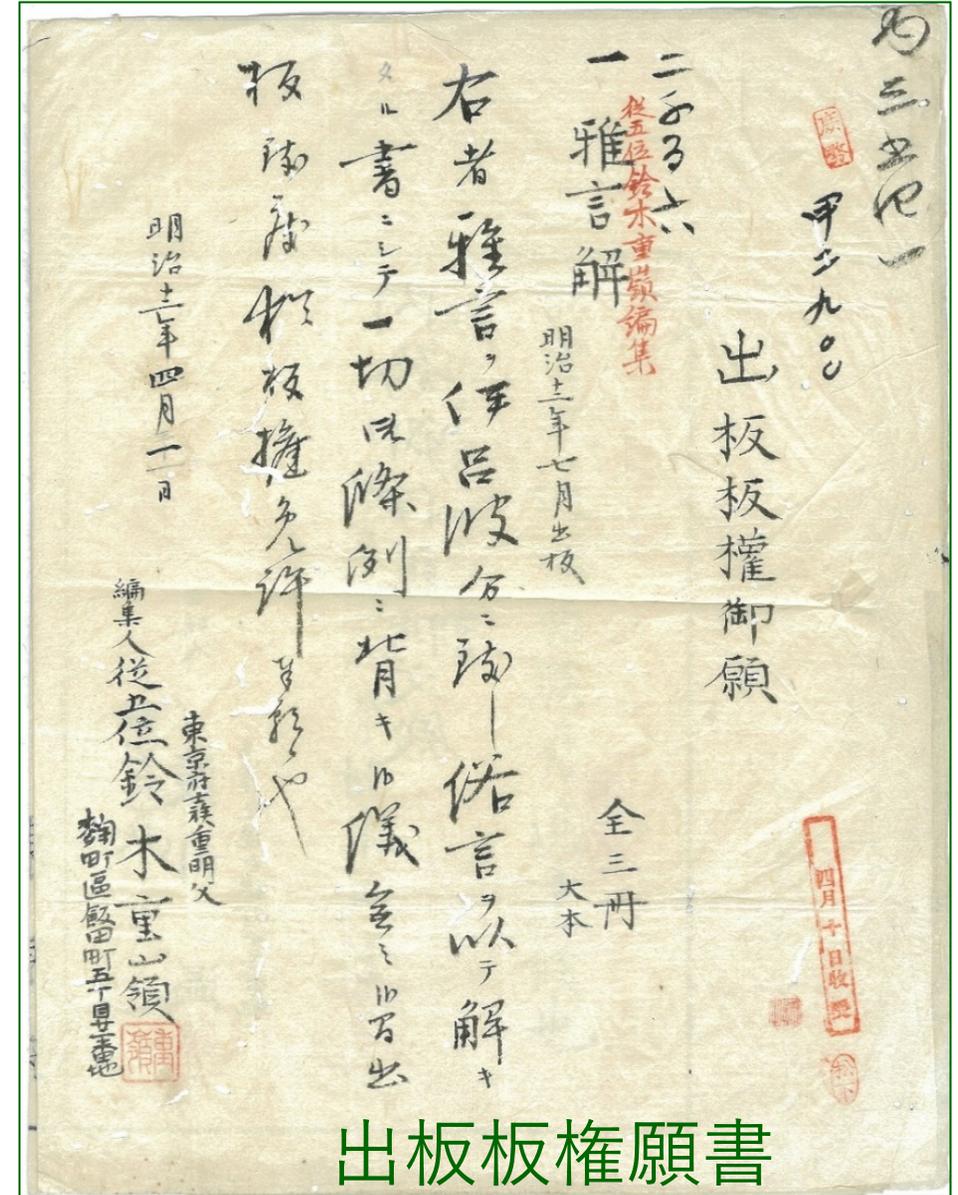


版權免許／願書



版權免許

出版条例以降 (有板権)



出板板権願書



明治戲作「幻阿竹噲迺聞書」

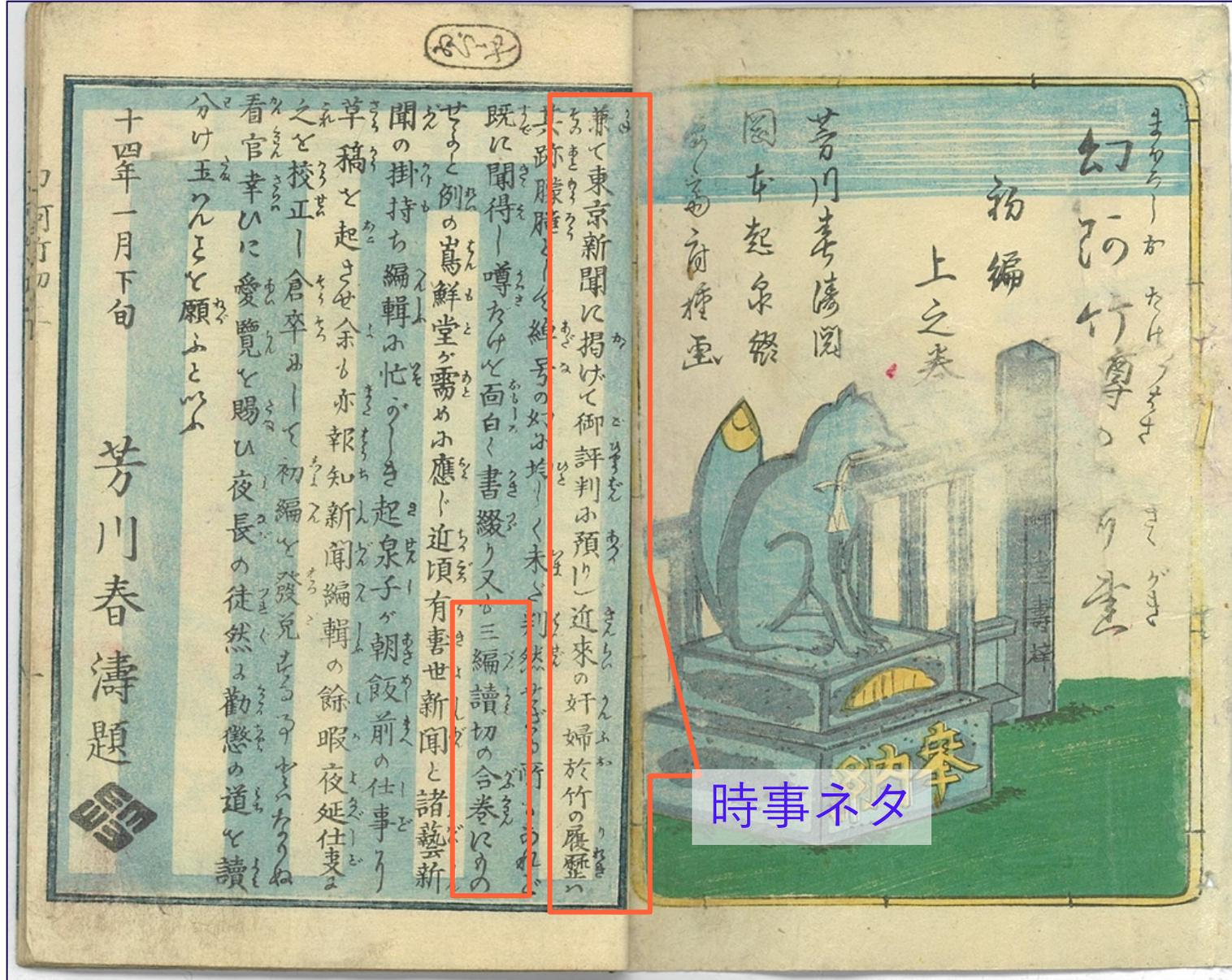


幻阿竹噲迺聞書 三編九冊讀切

明治14.1序
発行元（扉等）：島鮮堂
柱題：幻阿竹初上（初中、初下）
出版免許年時：明治14.1.6御届
出版人：綱島亀吉

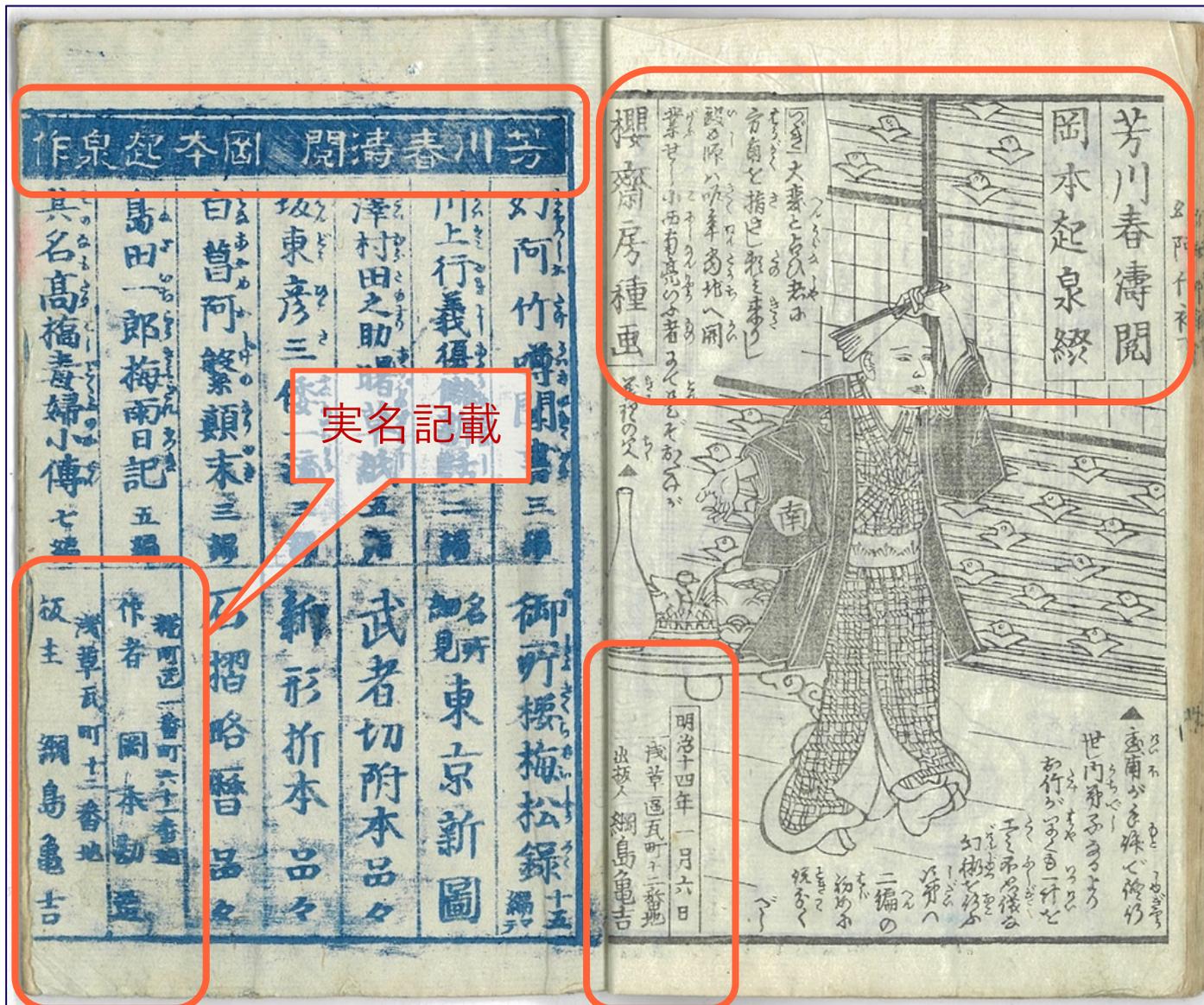


明治戯作「幻阿竹尊廼聞書」





明治戯作「幻阿竹噂廼聞書」



実名記載

明治本で確認しうる【出板人】というのは、明治二〇年の出版条例以前に使用された用語で、文字通り出版の法的な主体となる個人を指す。明治八年条例にいう「板（版）主」である。



明治期出版広告DBも確認する

http://base1.nijl.ac.jp/~meiji_pa/

国文学研究資料館 > 電子資料館 > 近代文献情報データベース >

明治期出版広告データベース

近代日本の出版事情を探ることを目的として、明治前期の新聞・雑誌等に掲載された出版物の広告を収録したデータベースです。主たる採録対象は、「東京日日新聞」「絵入自由新聞」「東京絵入新聞」「出版書目月報」「出版月評」等の出版書目雑誌類で、明治23年未までの広告情報を広告全に収めており、掲載広告書名のジャンルは極めて多岐に亘ります。なお、同一の広告掲載媒体（新聞・雑誌）に、全く同じ広告本文で複数回掲載がある場合は、原則日の一番早い広告のみを採録しています。

※広告が掲載されている新聞紙面の画像公開を開始しました。紙面画像は国立国会図書館所蔵のもの（2018/02/20）

※情報システムリプレイスに伴い、画面インターフェイスが変更になりました。（2016/01/28）

※明治期出版広告データベースと近代書誌・近代画像データベースにリンク情報を付与し、相互参照（2013/03/25）

近代書誌・近代画像データベースは、国文学研究資料館が全国の調査員とともに進めている調査の成果を、詳細な書誌情報と目次・全文画像によって提供するデータベースです。

- 明治期出版広告データベースで検索した広告について、関連書誌が近代書誌・近代画像データベース・所蔵情報ありのリンクが表示されます。
- 近代書誌・近代画像データベースで検索した書誌について、関連広告が明治期出版広告データベース（ADで始まる広告ID）のリンクが表示されます。

※本データベースコンテンツの一部は、平成18～21年度、24年度、26年度、28年度、平成29～30年度研究成果公開促進費「明治前期出版広告データベース」（研究代表者：青田寿夫）を受けて作成されています。明治期出版広告データベースの著作権は、国文学研究資料館にあります。研究論文等で参照されたい。

出版広告例 | **検索の使い方**

[東京日日新聞](#) | [絵入自由新聞](#)

- 広告掲載媒体（例：東京日日新聞、絵入自由新聞）の掲載年月日から、広告掲載書名の一覧にリンクしています。→当該紙の当該日に、どんな広告が掲載されていたかを一覧することができます。
- 書名から、書名に関する検索結果を表示します。→東京日日新聞掲載の書名を**広告掲載書名**検索で、絵入自由新聞の書名を**認定書名**検索の結果で表示します。
- 出版広告画像をクリックすると、その画像を拡大したウィンドウを表示します。（国文学研究資料館に無断で画像の複製・転載を行うことは禁止します。）

国文学研究資料館
明治期出版広告データベース
NIJL Publishing and Advertisement Database in Meiji Era

国文学研究資料館 電子資料館 近代文献情報データベース 明治期出版広告データベース (詳細検索) ヘルプ 件数: 112,294件 簡易検索画面へ Language ▾

詳細検索画面へ
ブラウズ (項目の一覧表示)

掲載年月日
広告ID
認定書名

関連DB:
近代書誌・近代画像DB
〈旧〉出版広告簡易検索
〈旧〉出版広告詳細検索

明治期出版広告データベース 国文学研究資料館

○レコード全体……広告掲載書名・認定書名・掲載年月日・広告本文・広告掲載媒体・広告ID・個別広告IDのフィールドを横断して検索します。
○広告掲載書名……広告に掲載された書名を検索します。
○掲載年月日……広告が掲載された年月日を範囲指定で検索します（西暦のみ）。
○広告本文……広告掲載本文を検索します。

※認定書名（個々の広告によって表記の異同等がみられる同一文献に対して、異称となる統一名を与えたもの）や掲載媒体等と併せて検索する場合は、「[詳細検索](#)」画面をご利用下さい。

レコード全体
キーワードを入力

広告掲載書名

掲載年月日 (西暦)

個別広告ID	IA0100775
広告掲載書名	幻阿竹噂の間書
広告掲載媒体	東京絵入新聞
掲載年月日	明治14 (1881) 年1月14日
広告本文	◆東京絵入、明治14.1.14 ○澤村田之助曙草紙 五編大尾 ○川上行義復讐新話 初編発売 右八諸新聞に大評判なりし敵討の次第を面白く綴たる書入読本二編読切にて来十五日初編売仕候 ○幻阿竹噂の間書 三編大尾 初編近刻 芳川春涛聞 岡本起泉綴 網島亀吉
広告ID	AD0042703
認定書名	幻阿竹噂の間書
書肆	網島亀吉



近代書誌・近代画像DBも確認

BIBLIOGRAPHIC AND IMAGE DATABASE OF JAPANESE MODERN TIMES
近代書誌・近代画像データベース

国文学研究資料館 電子資料館 近代書誌・近代画像データベース (詳細検索)

件数: 39,852件 (簡易検索) Language

詳細検索画面へ

カテゴリ

調査先一覧

ブラウズ

認定書名

発行元

関連DB:
明治期出版広告DB

近代書誌・近代画像データベース 国文学研究資料館

検索キーワードを入力して「検索」ボタンをクリックしてください

キーワードを入力 検索 クリア

全文画像が公開されている資料は、書誌詳細画面の「全文画像」欄にビューアーへのリンクが表示されます。
近代書誌・近代画像データベースで検索した書誌について、関連広告が明治期出版広告データベースにリンクが表示されます。

<https://base1.nijl.ac.jp/~kindai/index.html>

国文学研究資料館 電子資料館 近代書誌・近代画像データベース (詳細検索)

No. (ヒット件)

検索画面 戻る 一覧

笠松峠／鬼人於松伝

このページを印刷 このページのURL: <http://dbic.nijl.ac.jp/READ/NIL-00007>

所蔵番号/所蔵者請求記号	国文学研究資料館/14 105 1~2
認定書名/書名 読み	笠松峠／鬼人於松伝/かきまつとつげ きんごの影まつてん
発行本・資料の別/題目カード	発行本/題目カード
備考 (備考)	序文・口絵なし。奥目録の順光は荒田伊助だが、本書の広告はなく原表が不明。明治5合巻、「鬼神の影」は文政・天保期から合巻の題材となり、幕末・明治期に数巻改題本・異綴小説などで取り上げられた(前田祐子『鬼神の影』の解説)『青山語文』1999年3月)。
綴じ方	口つ綴じ心
備記	記載者名なし。国立国会図書館蔵本では、後見出しの広告が「編輯人 東京神田区尾道町一丁目八番地 永清堂五郎/出版人 東京本所区本所鬼町一丁目二十一人地 西田孝助」とある。本書では、上・下巻とも後見出しに広告「本所鬼町/西田伊助」。
文庫コード	NIL-00007
分類1	913 小説、物語
関連DB公開	
全文画像	http://school.nijl.ac.jp/smda/NIL/NIL-00007.html
文庫コード	NIL/

BIBLIOGRAPHIC AND IMAGE DATABASE OF JAPANESE MODERN TIMES
近代書誌・近代画像データベース

国文学研究資料館 電子資料館 近代書誌・近代画像データベース (詳細検索)

件数: 39,852件 (簡易検索) Language

簡易検索画面へ

カテゴリ

調査先一覧

ブラウズ

詳細検索画面

書名 AND

著者名 AND

発行元/発行人/出版人 AND

蔵書印・書込等 AND

所蔵者名 AND

BIBLIOGRAPHIC AND IMAGE DATABASE OF JAPANESE MODERN TIMES
近代書誌・近代画像データベース

国文学研究資料館 電子資料館 近代文献情報データベースポータル 近代書誌・近代画像データベース 近代書誌・近代画像データベース簡易検索画面 ヘルプ

1 / 26コマ

上巻・表紙

本文

広告

上巻・裏表紙

下巻・表紙

本文

広告

下巻・裏表紙



明治戯作「高橋おでんくどき」

明治十三年五月十四日御届
 東京日本橋區
 馬喰町三丁目六番地
 編輯 馬喰町三丁目六番地
 出版 馬喰町三丁目六番地
 吉田小吉



明治十三年(一八八〇)五月 吉田小吉 1銭5厘
 事件報道の拡大は、口説(くどき)節やちょぼくれ(浪花節の前身)、祭文などの大道芸や門付芸にまで数々な題材を提供しているが、そうした際物的出版物でも出版人や住所、定価が示される。



明治戯作 無版權本

無版權本



【要注意】 版權免許を出願しない本は「各人一般ニ出版スルヲ許ス」と出版条例第二条にあり、だれでも出版することが可能であった。版權免許を交付されていない本の忠実なコピーを作って売り出すことを翻刻といい、そうした本を【翻刻本】と呼ぶ。

奥付に記載された【翻刻人】の扱いは注意する必要がある。本屋の主人自らが翻刻人となって出版した場合なども存するのである。



明治戯作 無版權本



【翻刻本】異本



改印 (あらためいん)

浮世絵ぎやらりい

<http://www.ukiyo-e.jp/aratamein/>



錦絵はいつ作られたのか その発行年代を推定する
錦絵の刊年考究の基本文献を増補復刊●●●

江戸期の出版検閲制度をつぶさに検証考究し、錦絵の版上に捺された改印を多数収集整理。その様式変遷を明快に体系づけて刊行年代の指標を示した決定版。

補記 本稿制作のいきさつ『錦絵の改印の考証』使用上の参考
補註(2段組) 鈴木重三・木村八重子

■和綴本・144頁
定価 12,000円(税込)

石井研堂 著



Home ジャポニスム ゴッホと浮世絵 広重東海道の謎 浮世絵入門 gallery 浮世絵アプリ

Home > 浮世絵入門 > 極印と改印(2) - 第1期 極印の時代

極印と改印(2) - 第1期 極印の時代

スポンサーリンク

カテゴリ
ジャポニスム
ゴッホと浮世絵
広重東海道の謎
浮世絵入門
ギャラリー
浮世絵アプリ

第1期 極印の時代

寛政亥年(1791)~天保十三年(1842)

寛政の改革により、寛政2年(1790)から、出版物に対する規制がきびしくなりました。浮世絵や絵草紙を出版する際には、地本問屋の仲間が当番制で勤める「行事」の検閲を受けなければならなくなったのです。検閲を受けてOKが出たものには、「極」の印が押されました。これを「極印(きわめいん)」といいます。

地本問屋 地本問屋 地本問屋 ...

当番制で選出 ↓

行事

検閲を行い、問題がなければ
極の印を押した。



参考文献

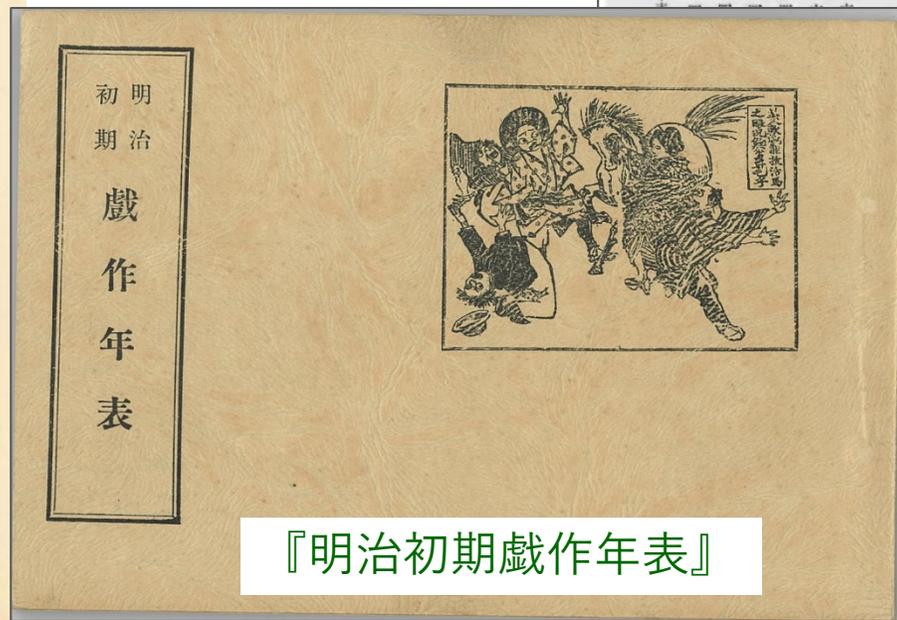
『享保以後大阪出版書籍目録』

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1815083>

『日本小説年表 附・総目録』山崎麓編 (近代日本文学大系第25巻所載)

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1883576>

享保以後 大阪出版書籍目録	
<p>三捕實錄 二十二冊 作者 島山泰全 板元 河内屋宇兵衛 出願 享保九年二月三日</p> <p>歸鞍吟 二冊 作者 伊丹屋茂兵衛 出願 享保九年三月</p> <p>香軒略集 一冊 作者 伊丹屋茂兵衛 板元 河内屋宇兵衛 出願 享保九年三月</p> <p>服忌令 折本一冊 板元 大津屋與右衛門 出願 享保九年七月二十五日</p>	<p>紺屋ひなかつた鶴の聲 一冊 板元 柏原屋清右衛門 出願 享保九年八月八日</p> <p>天道冥加訓 四冊 作者 武田幸助 板元 河内屋宇兵衛 出願 享保九年八月八日</p> <p>佩戒女小學 一冊 板元 敦賀屋九兵衛 出願 享保九年八月十四日</p> <p>醫方湯頭歌括 一冊 板元 秋田屋市兵衛 出願 享保九年十月二十九日</p> <p>類姓草畫 一冊 作者 辰巳屋茂兵衛</p>
<p>諸神本記 四冊 藏板人 寺島良安 支配人 池田屋三郎右衛門 出願 享保九年十月二十九日</p> <p>星經 上下二卷 作者 唐石中 板元 秋田屋市兵衛 出願 享保九年十一月十一日</p> <p>當流藝經大全 四冊 作者 秋山仙村 板元 紀伊國屋海兵衛 出願 享保九年十二月六日</p>	<p>萬福百人一首 (改板) 板元 柏原屋清右衛門 出願 享保九年十二月六日</p> <p>鳥羽繪筆拍子 三冊 筆者 長谷川庄藏 板元 正木屋九左衛門 出願 享保九年十二月六日</p> <p>實來百人一首 一冊 作者 伊丹屋茂兵衛 板元 伊丹屋茂兵衛 出願 享保九年十二月十八日</p>



『明治初期戲作年表』

日本小説書目年表 徳川時代 合巻本	
<p>○忠臣蔵伊呂波八編 四冊 墨川亭雪齋 香蝶樓國貞 ○兄弟九母畫乃文箱 六冊 作 同 畫 同</p> <p>○熊野御前花見車 四冊 梅倉春鳥 淡齋英泉 ○怪談春籠鳥三編 四冊 林屋正藏 歌川國貞 ○東海道五十三軒三編 四冊 鶴屋南北 歌川國貞 ○天満宮御一代記 五冊 寶田千町 歌川貞秀 ○繪本楠一代記 五冊 烏有散人 歌川國貞 天保十三壬寅年出版</p> <p>○新編金瓶梅九編 八冊 亭馬琴 歌川國貞 ○小女郎蜘蛛怨深環 六冊 作 歌川國貞 ○大晦曙神紙七編 八冊 山東京山 歌川國貞 ○竹取物語九編 八冊 作 同 畫 同</p>	<p>○浮世又平名畫譽 四式亭小三馬 五蝶亭貞重 ○大神太郎暴惡譚 六冊 墨川亭雪齋 一原齋芳鶴 ○忠臣蔵伊呂波九編 四冊 作 歌川國貞 畫 同 ○佛櫻樂屋雜談 一編 四世立川馬馬 同 畫 同 ○東方富士初夢神紙 六冊 寶田千町 歌川貞秀 ○見雷也豪傑譚四編 四冊 墨川貞秀 歌川國貞 ○旅視振袖日記 一冊 一名「蘇林志」 ○忍坂分道中數話錄 一冊 一名「蘇林志」 ○繪巻物今様姿 一冊 一名「蘇林志」 ○松竹梅春著染色 一冊 一名「蘇林志」 ○結縁妹背組緋 一冊 一名「蘇林志」 ○新織博多船越 一冊 一名「蘇林志」</p>
<p>○和漢一雙張交屏風 四冊 美園垣笑顔 歌川國貞 ○花紅葉錦伊達傘 四冊 作 歌川芳豊 1001 ○春説名勝記 六冊 作 歌川芳虎 ○武烈天皇強惡話 六冊 校合 同 畫 同 ○金澤萬八笑増談 四冊 松竹園秀山 歌川貞秀 ○勝景源氏乃高名 二冊 玉蘭主人 同 畫 同</p>	<p>○菊壽叢八編 六冊 山東京山 歌川國貞 ○繪圖見西行六編 三冊 作 同 畫 同 ○繪形鸞窓譚 四冊 作 同 畫 同 ○京鹿子振袖日記 六冊 作 同 畫 同 ○普標様娘評判記 六冊 作 同 畫 同 ○朧月猫草紙初編 八冊 作 歌川國貞 ○菊酒屋娘庭訓二編 四冊 作 歌川貞秀 ○田舎源氏冊八編 四冊 柳亭種彦 歌川國貞 ○隅田川月交見二編 六式亭小三馬 同 畫 同 ○三世相傳奇縁結赤繩 四冊 作 同 畫 同</p>



江戸以来の書籍商 『東京書籍商組合史及組合員概歴』

(C) 東京書籍商組合員概歴



田次金田 員社當務務業

ズルトコロアリ、明治二十七年五月京橋區船屋町ニ移シ、同時ニ歳々堂雜誌部ノ全部ヲ譲受ケ北陸館ト改稱シ、全国各地ノ書籍業者ニ對シ取次販賣ヲ開始ス。明治十九年十二月學齡館發行「少國民」ヲ引受、之ガ出版經營タルガ同三十四年他ヘ之ヲ譲渡ス。明治三十一年七組織ヲ變更シテ北陸館合資會社ト改メ、業務擔當員ハ然福田金次郎之ニ當リ、其後新聞部ト書籍部トヲ區分ル必要起リ、明治三十六年十二月合資會社北陸館書店ト改稱シ現在ニ至ル。

法木書店

法木 徳兵衛

二代(文久二年十一月二十七日生)

東京市日本橋區住吉町二十番地
創業 明治五年五月五日

生國ハ江戸深川ニシテ幼ニシテ法木ノ養嗣子トナル、明治四年毎日新聞ノ横濱ニ於テ行スルヤ、同社長島田豊寛トハ親戚ノ關係上同新聞ノ東京支局主任トナリ、又東京日々便報知其他ノ新聞雜誌ノ發行セラル、ヤ率先シテ其レガ賣捌ヲナシ、傍ラ新聞紙ニ連セル小説ヲ單行本トシテ發行セシモ事情ノ爲メ明治二十年十二月閉店シ。同二十一

新聞雜誌發賣會社ヲ起シタルモ再ビ閉店ノ止ナキニ至ル。其後東京テレメン會社、鐵貨本所其他會社ノ創立ニ從事セシモ好果ヲ得ズ、暫ク石版印刷業ヲ營ミシモ是又明治十年ニ至リ閉場ス。即チ明治四十一年ヨリ格曲務古本ノ發行ヲ專ラトシ以テ現在ニ至ル。別ニ漸進堂ト稱ス。

勉強堂書店

岸 野英一

初代(明治二年九月十七日生)

東京市神田區錦町二丁目一番地
創業 明治三十二年九月二十五日



岸野英一

生國ハ新潟縣南魚沼郡湯澤村ニシテ明治二十三年三月三日出生シ翌四月東京創業シ、リ入店ス同二十六年湯澤山栗米店ヘ白米高見習トシテ勤務シ同二十七年二月一日芝區田村町六番地ヘ白米店ヲ開業シ、同三十二年八月之ヲ他ニ譲リ、同年九月現在地ヘ勉強堂書店トシテ書籍雜誌ノ取次業ヲ開始シ、傍ラ出版ヲ爲シ今日ニ及ブ、別ニ文王閣ト稱ス。
明治四十三年ヨリ本年ニ至ル東京書籍商組合評議員ニ當選シ、大正元年八月株式會社大正堂ノ創立セラル、ヤ同取締役ニ就任ス。

法木書店 勉強堂書店

八九

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/949275>



近代文献調査マニュアルほか

近代文献調査マニュアル 別冊

2015.05.31 増訂



国文学研究資料館・調査収集事業部

TEL : 050-5533-2900 (代表)
050-5533-2913, 2914 (調査収集係)

明治前期出版法令抄

◆出版条例 (明治2年) 法令全書
五月十三日 (行政官)

書籍出版
被設検問
依而出版
但従来蔵
候処未夕
出事
(別紙)
出版
出版条例
一出版ノ
ヒ一枚摺
一安ニ教
導クコト
一図書ヲ
保護ノ年
欲スル者
一図書ヲ
ヲ具ヘ学
免許ノ月
一出版ヲ
シ刻成サ
一刻成ル
此レ各所
一官ニ告
本ヲ没入
但シ之ヲ
一官許ヲ
但シ未夕
一重版ノ
ルモノ亦
但罰金ハ

明治前期書肆・出版人リスト

愛善社 東京京橋区銀座二丁目十二番地芳澤雄誌坂本局

青木国次
青木恒三

24

東京書林組合員名簿 (明治14年2月)

日本橋区通一一五 浅草区浅草五町二八 福井友三郎

青木輔清
青野友三
青柳国松
赤川孫兵
赤沢政吉

赤志忠七

赤松市太

秋元房治

浅井橋池

浅井重光

浅井真藏

浅井精一

朝野文三

東為雄

足立康吉

荒木利一

飯井万助

飯岡貞

飯田銀雄

飯田登久

池田孝吉

池部活三

池村鶴吉

同区同町二

同区同町三

同区同町四

同区同町五

同区同町六

同区同町七

同区同町八

同区同町九

同区同町十

同区同町十一

同区同町十二

同区同町十三

同区同町十四

同区同町十五

同区同町十六

同区同町十七

同区同町十八

同区同町十九

同区同町二十

同区同町二十一

同区同町二十二

同区同町二十三

同区同町二十四

同区同町二十五

同区同町二十六

同区同町二十七

同区同町二十八

同区同町二十九

同区同町三十

幕末明治画工名 別号一覧 (仮)

附・歌川一門別号等早見



凡例

- 認定著者名は、「近代文献情報データベース」の人物情報として規定したもので、一般的な表記・著者名と異なる場合があります。
- 著者名表記に記載されているものは、文献資料調査によって探録された情報を基にしています。
- 備考欄の西暦及び元号は、特記ない限り、作面時期を表しています。
- 「別号一覧」は、随時追加・更新いたします。
- 「別号等早見」のマーク色替えて示した改名時期は、目安としてご利用ください。

参考文献

https://www.nijl.ac.jp/pages/images/youryou_kindai_betsu.pdf



児雷也豪傑譚を読んでみる



児雷也豪傑譚七編（弘化四年）





児雷也豪傑譚を読んでみる





童繪解万国噺 万延2年 (1861)



童繪解万国噺 初編五卷

梅松愛さそめ菅神の詠歌。海と山千里を隔さむ人毛。物言かゝむ文字は。棧どはら孫あひも。宜る哉文化盛典。乃徳居あぐりて。海外万里の情態を精通。臥寐に諸蠻の治乱を。覈明去泰平の恩沢。仰尊むべきことふあんな。然と虫。漢蘭の異文外藩の字音。我童蒙婦女の爲に。讀安うらば。茲み於て。皇國假字の解和。萬里外の情景を。諸書の中より。披翠して。萬国話と号するもの。是日秋夜の長き。み供の。御伽草紙とのいさく而已。

萬延二年酉春

假名垣魯文記



童繪解万国噺 万延2年 (1861)



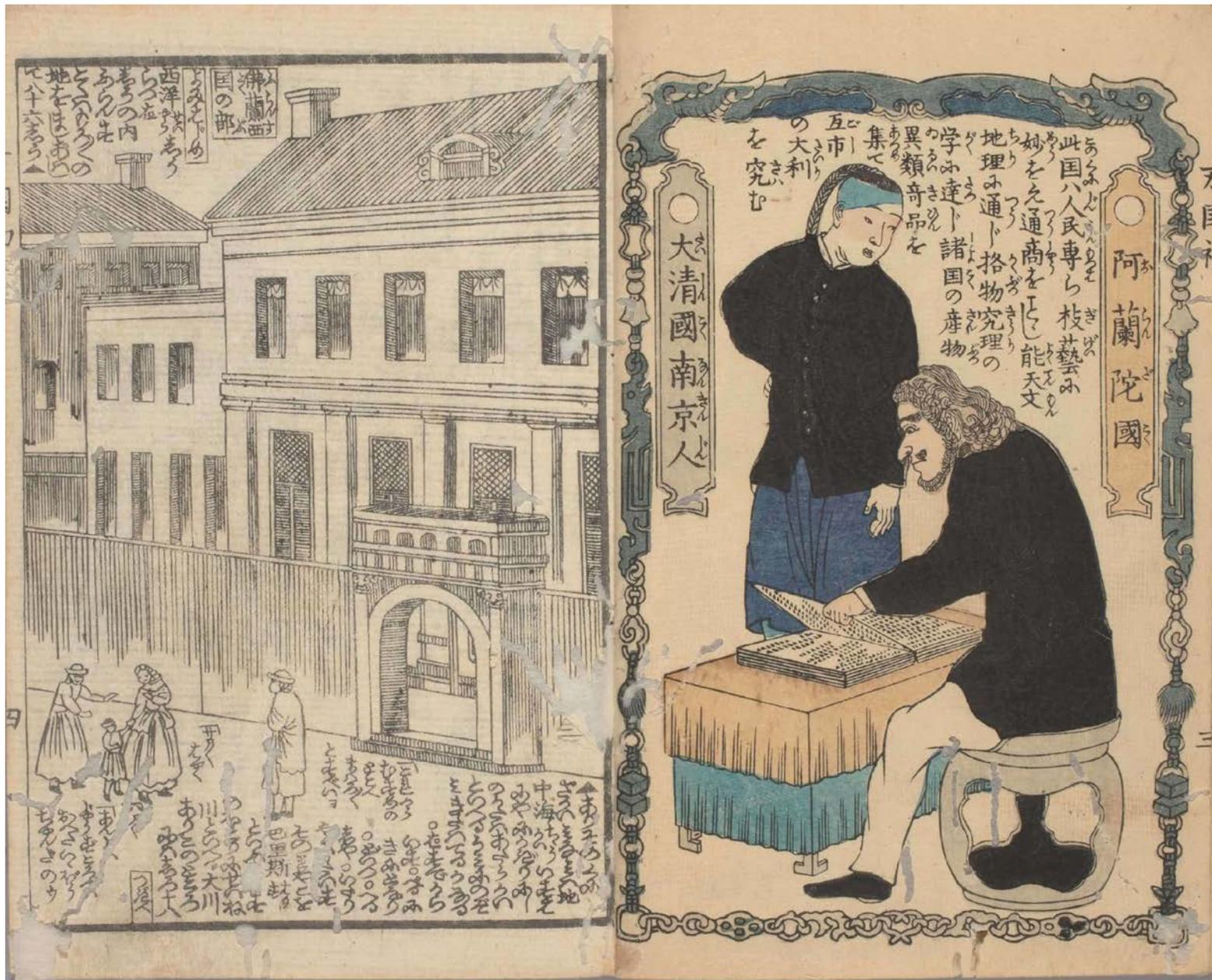


童繪解万国噺 万延2年 (1861)





童繪解万国噺 万延2年 (1861)





それではこのセッションを終わりにします